一菱金属株式会社

いちびしきんぞくかぶしきかいしゃ

燕市

古紙を価値に変える地域循環モデル

商品発送時の緩衝材を地域内で循環させる取組です。

大量生産の新たに作られた緩衝材ではなく、エネルギーを使って再生の必要もない古紙をそのまま緩衝材で使い、資源・エネルギー・リサイクルの最適解なスキームとなっています。

発送の際に使用する梱包資材はポリエチレン製のエアキャップやバージンパルプの緩衝材を埼玉県から弊社まで運んでいる環境でした。資源とエネルギーを使って緩衝材を作り、石油資源を使って運び、その緩衝材は受取先が処理することになります。また、新聞の印刷調整時にインクなしの白紙新聞紙が出て古紙に回している状況でもありました。

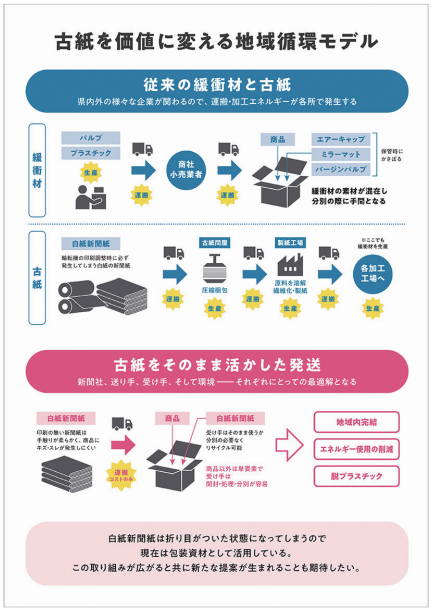
こうしたことから、その新聞紙をそのまま緩衝材として利用し、資源やエネルギーの負荷を少なく、関わっている各社にとっても負担なく続けられる、地域循環を目指しました。

取組スタートから累計で 1,500kg の古紙（白紙新聞紙）を使用しており、同等の重量が石油系のエアーキャップやバージンパルプから置き換わっています。弊社が取組を始めてから、県内企業 3 社がこの取組をスタートし、広がりが生まれています。

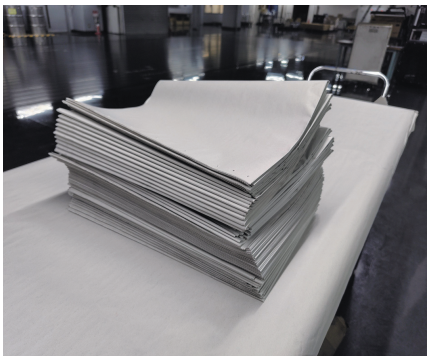
緩衝材は、エアーキャップやバージンパルプを使うこと一択のみの県内企業に対し、新たな選択肢があることの提案となり、企業イメージへの付加価値となることで地域全体に広がることを期待しています。



印刷調整時に発生してしまう白紙新聞紙



古紙を価値に変える地域循環モデル _ スキーム図



積上がった白紙新聞紙



白紙新聞紙を商品発送時の緩衝材に利用

受賞者コメント

産地・燕三条のものづくりは、材料提供から包装まで、多岐にわたる分業によって支えられています。その工程の更なる一歩先の梱包資材にも、県内新聞社様と連携し、白紙新聞紙を再利用した包装形態を採用するなど、身近な循環から環境負荷を低減する提案を積み重ねました。この度の栄えある受賞を契機に、この循環モデルを継続すると共に、他企業においても白紙新聞紙の活用が広がり、カーボンゼロへの歩みが加速することを願っております。